

NO.327

泉南走り会

先鋒 泉南スポーツ社
0724(83)4653

例会

・四月十二日(日)

九時 集合

場所 種河神社

・四月二十六日(日)

九時 集合

場所 種河神社

1. 大会結果

●熊取ロードレース 3月1日

この大会も年を追う毎に段々と参加者が増えて賑やかになってきていると思います。またその分レベルも上がり中々上位に入るのは難しくなっています。そんな中、芝本さんが女子の40才以上の部で6位に入賞され表彰を受けました。また、今回、仕事が忙しくほとんど練習会にも参加できていなかった石井さんが家族と共に会場にいられていて、久々にレースに参加できていました。

2. 3月の話題

●東京マラソンについて

今年で3回目となったこの大会、大会前から色々な事で話題となっていました。先ず参加者の募集では、26万人を超える応募や一流選手の最後の花道を飾るレースとしてニュースなどでも取り上げられていました。男子の日本記録を持っていた高岡選手、日本の女子マラソンを引っ張ってきた土佐選手、女子トラック界を代表する弘山選手もこのレースを最後に引退されました。

又、一般参加でも52日連続マラソンのギネスに挑戦し、これまでの世界記録の51日を見事に破られた方がおられニュースや新聞で取り上げられていました。

そして芸能人の方の参加者も多く話題として、事欠かないものでした。そんな中で、チヨット驚いたのが、掛布選手のものまねでも知られる松村さんが、心肺停止状態になり救急処置を受けて救急車で運ばれた事です。この大会制限時間も7時間

と長いので、初心者の方でも参加が容易であるからだと思います。しかし、一つ間違えれば命に関わる事です。参加者自身も考える必要があるのではないかと思います。あまりにも軽く考え過ぎではないでしょうか。

09年走行距離

氏名		1月	2月	3月	4月	5月
芝本 鈴代	月	520	419			
	累計	520.0	939.0			
今仁 正義	月	212	209			
	累計	212.0	421.0			
堀池 一夫	月					
	累計	0.0				
栗野原泰正	月					
	累計	0.0				
岡田 盛助	月	365	271			
	累計	365.0	636.0			
西 和秀	月					
	累計	0.0				
和田 年弘	月					
	累計	0.0				
岡元 邦博	月	233	278			
	累計	233.0	511.0			



●アースマラソン

昨年暮れ大阪をスタートし、千葉まで走り続けた後、年明け早々に千葉に到着、ヨットで太平洋横断されていた寛平さんが、約3ヶ月掛けて3月始め奥さんや関係者の迎える中、無事アメリカ西海岸に到着。その後アメリカ大陸横断に向けスタートされました。今まさにアメリカ大陸を東に向かって走っておられると思います。無事到着を願っています。また、何れテレビでも放送されるかと思しますので楽しみにしたいと思います。

●WBC(ワールド・ベースボール・クラシック)に関して

今回が第2回大会で、3年前の第1回大会で優勝を飾った日本プロ野球界の選ばれた選手達が、国の威信を掛けて戦ったWBCで見事連覇を果たし、異常な盛り上がりを見せてくれました。これまでの対戦でも、北京オリンピックを含め負け越している韓国とは、一次予選から盛り上がりました。そして二次予選も、強敵のキューバに勝ち決戦のすえ見事2連覇を果たし、日本中がテレビ、携帯、などでの観戦に熱狂しました。また、家電量販店のテレビ前にも多くの人が集まり昔の力道山の活躍した時の様であったと言われていました。最近こんなに日本中が熱く盛り上がったのも珍しい事ではないでしょうか。

抜きつ抜かれつ



05年の東京国際女子マラソンでゴールする松田千枝さん(右)と娘の玲さん(左)国立競技場、羽後栄撮影

■女が東京を走ったへの感想は上記アトレスへ。12日から新シリーズ「アトレス」です。

ランニングをはじめたのは27歳。保育園に通う弟を育てながら、養生堂で化粧品の色、デザインの企画などをしていた。

毎日、仕事を持ち帰り、家事にも追われ、へとへとに。研究者の夫泉(28)が健康のため走り始めたのをみながら、出勤前に走ってみた。汗をかいたのが気持ちいい。頭もさえた。

「走りながら目にした柿の色が口紅の新商品のアイデアにつながったこともありました」

第一回の東京国際女子マラソン。千枝は「マン美智子(28)ら世界の一流選手と走る。心が躍った。年にいちど、11月のレースが待ち遠しくなる。

「化粧品は発売からできあがるまで1年サイクルなんです。マラソンも1年計画でトレーニングを積む。去年と違う私を見てもう舞台が広がった。大会。大会スポンサーの養生堂も社員の手を応援してくれた。

足を痛め、出場できなかった年もある。でも、あきらめなかった。元東京五輪体操選手、中村多仁子(29)の助言でフォームを改め、ヨガやメンタルトレーニング

も毎日残業。帰っても興奮状態が続いて、なかなか寝つけずに

その玲に引きまわったのが中学、高校の同級生で親友の滝合新(26)。東京都庁に勤め、27歳で結婚した。

「生活ペースが変わり、仕事も毎日残業。帰っても興奮状態が続いて、なかなか寝つけずに

玲は26歳で東京国際の参加資格タイム(当時3時間15分)を切る。あこがれのレースに挑むが、母とは20分差。まだまだ千枝のほうがうまい手だった。

初めて母と並走したのは8年後、05年大会だ。終盤追いつき、ラストでまた離されてさになったが、踏ん張った。「せつかつたから、手をうないでゴールしようか」といわれ、「いいの」。笑顔で指をからめた。

「あれからです。いつも私を先を走っていたのが、逆になつて」と千枝はあきかえる。

玲に話したり、「おねはまずいよ。走らう」と誘われて

最初は3km走るのが精いっぱい。4カ月後、沖縄で初のフルマラソンに挑む。「苦しくて二度と走らなかつた。15kmまで行ったらもうやめようと思った」と千枝が、その15kmで気が変わる。「20kmまで。20kmまでは25kmまで。35kmまで走たら」「はっつてゴールした」。5時間半かかって完走する。次はもっといい記録を出したいと願う自分がこいた。

東京国際に出るのは今年で3回目。4歳の娘真希を夫の真入(41)にみてもらい、「スナあらは走ってます。娘に『ママは走らないと死んじゃうんじゃない?』って言われるくらい」。北海道に住む新築敏子(41)は40代でマラソン人生をスタートさせた。東京国際に第一回から11年連続出場。「1期生」仲間の松田千枝らと年輩状をやりとりし、励まし合う。

小学校の先生だった新築は山登りが趣味。体力づくりに走っているうちにマラソン挑戦を思い立つ。100回以上走り、この8月も地元北海道マラソンに出た。レース前、「へえ、おばちゃん走るの? 頑張つて」と見知らぬ人からエールを送られた。

「42kmという距離は私にあっている。もう速くは走れませんが、30kmすぎからエネルギがわいてくるんです」

草の根を育んできた東京国際女子マラソンは今年が最後。約1千人のランナーが16日昼の号砲を待っている。

(このシリーズは杉山圭子が担当しました。本文敬称略)